

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年8月11日
【四半期会計期間】	第36期第1四半期（自平成27年4月1日至平成27年6月30日）
【会社名】	ピー・シー・エー株式会社
【英訳名】	PCA CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 水谷 学
【本店の所在の場所】	東京都千代田区富士見一丁目2番21号
【電話番号】	03(5211)2711
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 佐藤 文昭
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区富士見一丁目2番21号
【電話番号】	03(5211)2711
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 佐藤 文昭
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第35期 第1四半期連結 累計期間	第36期 第1四半期連結 累計期間	第35期
会計期間	自平成26年 4月1日 至平成26年 6月30日	自平成27年 4月1日 至平成27年 6月30日	自平成26年 4月1日 至平成27年 3月31日
売上高 (千円)	1,982,807	1,819,296	8,168,128
経常損失( ) (千円)	137,543	26,182	157,803
親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失( ) (千円)	114,961	34,790	207,025
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	42,447	72,798	104,961
純資産額 (千円)	11,325,716	10,975,756	11,263,064
総資産額 (千円)	15,073,422	15,101,969	15,725,710
1株当たり四半期(当期)純損失金額( ) (円)	16.78	5.08	30.22
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	74.4	71.9	70.9

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、当第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純損失( )」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失( )」としております。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

なお、当第1四半期連結累計期間より、「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）等を適用し、「四半期純損失」を「親会社株主に帰属する四半期純損失」としております。

#### （1）業績の状況

当第1四半期連結累計期間における我が国の経済状況は、消費税増税後の内需の落ち込みに回復の兆しが拡がり、EUにおけるギリシャ問題、中国経済の減速等の不安材料もあるものの、円安基調が依然として根底にあることもあり、景況感の改善傾向が顕著となっております。

情報サービス産業におきましては、パソコンの国内出荷台数の前年割れが続いているものの、6月にはその減少幅にも縮小傾向がみられ、内需拡大傾向の一躍としてのIT投資の増加が大企業を中心に拡がりを見せるとともに、マイナンバー対応を巡る関心も高まっております。

当社グループでは、製品売上においてデスクトップパソコン出荷の前年割れに比例し出荷の停滞状況が続いているものの、四半期末にかけ、持ち直しの傾向もみられてまいりました。一方で、前述したマイナンバー対応需要の獲得に注力しており、全国各地で当社ユーザー様を対象に好評開催中の「ソリューションカンファレンス」においても、当社のマイナンバー施策についての高いご関心を頂いております。

現在サービス展開準備中の「マイナンバー収集サービス」や「マイナンバー電子割符(分割管理)オプション」に先駆け提供を開始しております、「PCAマイナンバー取扱規程作成(セルフ版、ヘルプ版)」については、既に多数の引き合いを頂いており、導入実績6,000法人を突破した「PCAクラウド」の更なる拡販と合わせ、今後も継続した展開を図ってまいります。

また、経費執行については、現状の売上状況を注視し、TVCMの放映執行を一時的に見合わせつつ、新聞広告において当社のマイナンバー対応を積極的に謳う等、慎重かつ効果的な執行を継続しております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高 1,819,296千円（前年同期比8.2%減）、営業損失 29,028千円（前年同期は営業損失 144,357千円）、経常損失 26,182千円（前年同期は経常損失 137,543千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失 34,790千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失 114,961千円）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### 「一般企業向け」

中堅中小規模の企業一般に向けたソフトウェア販売及び統合型基幹業務ソフトである「PCA Dream21」の販売等を主とする一般企業向け事業につきましては、売上高は1,414,978千円(前年同期比2.2%減)、セグメント利益は101,619千円（前年同期比35.7%減）となりました。

#### 「クラウド」

インターネット上で業務アプリケーション等を自由に活用する方式である「クラウド」の一形態であるサービス型ソフトウェア「SaaS」に関するクラウド事業につきましては、売上高は256,311千円(前年同期比14.5%増)、セグメント利益は149,651千円（前年同期比58.5%増）となりました。

#### 「非営利向け」

公益法人、社会福祉法人等の非営利法人に対するソフトウェア販売を中心とした非営利向け事業につきましては、売上高は83,307千円(前年同期比65.8%減)、セグメント利益は10,561千円(前年同期比91.5%減)となりました。

#### 「メディカル」

子会社である株式会社マックスシステムと共同して営む、医療機関向け医療情報システムに関するメディカル事業につきましては、売上高は79,540千円(前年同期比10.9%減)、セグメント損失は72,998千円(前年同期はセグメント損失 65,344千円)となりました。なお、「メディカル」は特に下期に案件が集中する見込みであります。

#### （2）事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

### (3) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、45,285千円であります。なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### (4) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

#### (外部環境要因)

当社グループを取り巻く事業環境は、会計基準の変更、税法等の改正及び各種制度の改正などによって、ソフトウェアの更新需要が大きく変動する傾向があり、当社グループの経営成績に重要な影響を及ぼすことが考えられます。

#### (内部環境要因)

当社グループでは、パッケージソフトウェアの製品開発において、「研究開発費等に係る会計基準」(企業会計審議会 平成10年3月13日)に基づき費用配分の会計処理をしております。

当社グループにおける製品開発については、既存のソフトウェアに新しい機能等を付加した、いわゆるアップグレード版のソフトウェアの開発もおこなっており、そのような場合には、次期以降の収益との対応を図る観点から、無形固定資産に資産計上しております。

従いまして、製品開発の状況によっては、当期の費用となるものと、資産計上をしてから次期以降の費用になるものとの金額の変動により、当社グループの経営成績に重要な影響を及ぼすことが考えられます。

#### (経営戦略の現状と見通し)

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの経営戦略の現状と見通しについて重要な変更はありません。なお、上記の見通しについては、現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後のさまざまな要因によって異なる結果となる可能性があります。

### (5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当第1四半期連結会計期間末の当社グループの資金状況は、流動比率が316.1%(流動資産8,332,279千円÷流動負債2,635,556千円)となっており、十分な流動性を確保しているものと認識しております。

### (6) 業績の季節的変動に係る影響について

当社グループの売上高は、決算期末に基幹業務システムの切り替えを行う企業が多いことから、3月決算会社の決算期に合わせて新製品のリリース等を行っているため、第4四半期に偏重する傾向を有しております。

これに対して販売費及び一般管理費は、その大部分が固定費であり、広告宣伝費等先行して発生する経費があることから、上期は経常損失の事業計画となっております。したがって、第4四半期の売上高の達成状況により、年間の業績見込が変動するリスクがあります。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	23,695,000
計	23,695,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成27年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成27年8月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	7,700,000	7,700,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	7,700,000	7,700,000	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成27年4月1日～ 平成27年6月30日	-	7,700,000	-	890,400	-	1,919,120

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】  
 【発行済株式】

平成27年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 848,600	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,849,600	68,496	-
単元未満株式	普通株式 1,800	-	一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	7,700,000	-	-
総株主の議決権	-	68,496	-

(注)単元未満株式数に、自己株式47株を含んでおります。

【自己株式等】

平成27年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
ピー・シー・エー株式会社	東京都千代田区富士見 1-2-21	848,600	-	848,600	11.02
計	-	848,600	-	848,600	11.02

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間において、役員の異動はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成27年4月1日から平成27年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,154,210	6,037,883
受取手形及び売掛金	1,539,902	987,972
たな卸資産	40,630	42,143
繰延税金資産	703,924	703,924
その他	546,985	562,310
貸倒引当金	2,436	1,955
流動資産合計	8,983,216	8,332,279
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,415,697	1,438,420
土地	2,794,424	2,794,424
その他(純額)	167,692	193,631
有形固定資産合計	4,377,814	4,426,477
無形固定資産		
のれん	99,177	74,559
その他	774,991	813,696
無形固定資産合計	874,169	888,255
投資その他の資産		
その他	1,491,029	1,455,475
貸倒引当金	519	519
投資その他の資産合計	1,490,509	1,454,956
固定資産合計	6,742,493	6,769,690
資産合計	15,725,710	15,101,969
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	139,522	121,151
前受収益	1,665,483	1,660,539
未払法人税等	20,252	10,341
賞与引当金	207,516	54,974
役員賞与引当金	25,160	5,334
その他	944,488	783,215
流動負債合計	3,002,422	2,635,556
固定負債		
長期前受収益	507,698	525,081
役員退職慰労引当金	138,515	123,046
退職給付に係る負債	778,612	791,309
資産除去債務	35,395	51,219
固定負債合計	1,460,222	1,490,656
負債合計	4,462,645	4,126,213

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	890,400	890,400
資本剰余金	1,919,120	1,919,120
利益剰余金	9,090,701	8,843,518
自己株式	1,039,177	1,039,177
株主資本合計	10,861,043	10,613,861
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	280,917	247,800
その他の包括利益累計額合計	280,917	247,800
非支配株主持分	121,103	114,094
純資産合計	11,263,064	10,975,756
負債純資産合計	15,725,710	15,101,969

## ( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
売上高	1,982,807	1,819,296
売上原価	745,452	819,875
売上総利益	1,237,354	999,421
販売費及び一般管理費	1,381,712	1,028,449
営業損失( )	144,357	29,028
営業外収益		
受取利息	994	1,000
受取配当金	5,025	1,836
受取賃貸料	4,037	4,506
その他	1,242	1,041
営業外収益合計	11,299	8,384
営業外費用		
固定資産除却損	171	5,411
その他	4,313	126
営業外費用合計	4,485	5,538
経常損失( )	137,543	26,182
税金等調整前四半期純損失( )	137,543	26,182
法人税等	15,125	13,499
四半期純損失( )	122,418	39,681
非支配株主に帰属する四半期純損失( )	7,456	4,890
親会社株主に帰属する四半期純損失( )	114,961	34,790

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
四半期純損失( )	122,418	39,681
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	79,970	33,117
その他の包括利益合計	79,970	33,117
四半期包括利益	42,447	72,798
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	34,990	67,907
非支配株主に係る四半期包括利益	7,456	4,890

## 【注記事項】

## (会計方針の変更)

## (企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、  
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)  
及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)  
等を当第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、当第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58 - 2項(4)、連結会計基準第44 - 5項(4)及び事業分離等会計基準第57 - 4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

これによる損益に与える影響はありません。

## (四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

## (四半期連結損益計算書関係)

売上高又は営業費用に著しい季節的変動がある場合

当社グループの売上高は、決算期末に基幹業務システムの切り替えを行う企業が多いことから、3月決算会社の決算期に合わせて新製品のリリース等を行っているため、第4四半期に偏重する傾向を有しております。

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)
減価償却費	136,018千円	137,272千円
のれんの償却額	24,617千円	24,617千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月25日 定時株主総会	普通株式	280,908	41.00	平成26年3月31日	平成26年6月26日	利益剰余金

普通配当31円00銭に記念配当10円00銭を加え、合計41円00銭としております。

当第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月25日 定時株主総会	普通株式	212,391	31.00	平成27年3月31日	平成27年6月26日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 (注2)
	一般企業 向け	クラウド	非営利向け	メディカル	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,426,732	223,762	243,032	89,279	1,982,807	-	1,982,807
セグメント間の内部売上高 又は振替高	19,811	-	311	-	20,123	20,123	-
計	1,446,544	223,762	243,344	89,279	2,002,930	20,123	1,982,807
セグメント利益又は損失 ( )	158,162	94,402	124,887	65,344	312,108	456,465	144,357

(注1)セグメント利益又は損失( )の調整額 456,465千円は主に各報告セグメントに配分していない全社費用であり、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない広告宣伝費及び一般管理費であります。

(注2)セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 (注2)
	一般企業 向け	クラウド	非営利向け	メディカル	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,400,137	256,311	83,307	79,540	1,819,296	-	1,819,296
セグメント間の内部売上高 又は振替高	14,841	-	-	-	14,841	14,841	-
計	1,414,978	256,311	83,307	79,540	1,834,137	14,841	1,819,296
セグメント利益又は損失 ( )	101,619	149,651	10,561	72,998	188,834	217,863	29,028

(注1)セグメント利益又は損失( )の調整額 217,863千円は主に各報告セグメントに配分していない全社費用であり、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない広告宣伝費及び一般管理費であります。

(注2)セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
1株当たり四半期純損失金額( )	16円78銭	5円08銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失金額( )(千円)	114,961	34,790
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失金額 ( )(千円)	114,961	34,790
普通株式の期中平均株式数(株)	6,851,434	6,851,353

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年 8月10日

ピー・シー・エー株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	野口 昌邦	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	田中 淳一	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているピー・シー・エー株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成27年4月1日から平成27年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ピー・シー・エー株式会社及び連結子会社の平成27年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。